

## 姫川・国道148号線 現地見学会報告

川 島 隆 義\*

8月20日(火)快晴、地盤工学会北陸支部・日本技術士会北陸支部・新潟応用地質研究会の三会が合同で姫川流域の7.17災害跡と、その復興の状況を見学することが出来た。

この三会が合同で見学会を行うのは珍しく、私の記憶では初めてのことと思われる。これまでは、技術士会と応用地質研究会との合同見学会は幾度か行われてきた。このたび、地盤工学会で姫川流域の見学を行う事を知り、我々も同じ構想を持っていたので、地盤工学会の北陸支部幹事長である新潟大学の大川先生に、合同見学の希望をお伝えしたところ快くご承諾をいただき、本会の実現となったものである。

現地では県土木部の山岸さんをはじめ、糸魚川土木事務所の河川・砂防・道路維持の各課長さん、並びに担当職員の皆さんからご案内いただき、お陰様で80名を超える参加者があり、それぞれが自然の威力を目の当たりにすると共に、被災された人々の一日も早い立ち直りを願いつつ、人知を集めた復興の槌音を聞き、有意義な見学会を無事行うことが出来た。感謝、感謝。



写真-1 姫川温泉付近

土砂堆積による河床の上昇で姫川に架かる橋梁は多くの被害を受けた。ここではかろうじてJRの橋脚と桁が残されていた。



## 写真-2 第1見学地点の参加者

第1見学地点では、コンクリートブロックの製作ヤードを見た。  
ここでは姫川方式という新潟県独自の考案によるブロックを製作していた。





写真-3 突付洞門付近の復旧状況

姫川の流衝部のため大きく侵食を受ける。洞門内まで土砂が溜まったとのこと、洞門天端には落石の緩衝材として古タイヤが並んでいた。



写真-4 R148 新国界橋跡

長野県境にある新国界橋は出来て1年あまりで流出した。左のコンクリートは新潟県側のアバット、下に新しい基礎を建設中である。